

I 旧川上連合町内会編

この編は、現在の6連合町内会を江戸(東京)に近い順から紹介します。

江戸時代の川上地区は、旗本が領地を治め、領主は杉浦家(平戸村)や新見家(品濃村)などであった。

明治11年(1878)「郡区町村編成法」施行により、行政区画としての鎌倉郡が発足(郡役所は吉田町に設置)し、明治22年(1889)「町村制」が施行され、川上村が誕生しました。これにより以前の村は「字〇〇」となり、このときに秋葉村は中川村に編入されました。

昭和14年に1町(戸塚町)7ヶ村(川上、瀬谷、中川、豊田、本郷、中和田、大正)が横浜市に編入され戸塚区が誕生した際に、それぞれが新たな町となりました。

昭和35年4月、中川村の秋葉町が加わり8町内会(平戸、品濃、川上、前田、上柏尾、柏尾、舞岡、秋葉)により川上地区連合町内会が結成されました。

この体制は25年以上にわたり維持されてきましたが、企業誘致や東戸塚駅開業(昭和55年)などにより、人口が急増した事もあり、昭和62年4月に平戸・東戸塚・舞岡の各連合町内会が分離・独立し4連合町内会体制になりました。さらに3年後の平成2年4月に川上地区より柏尾地区連合町内会が、平戸地区より平戸平和台地区連合町内会が分離・独立して、旧川上村は6連合町内会の体制となり現在に至っています。



引継がれた川上地区連合町内会旗

1. 旧川上連合町内会の沿革

旧川上地区連合町内会の「100年」の歴史は、以下の4つの時代に大きく分けられる。

1. 江戸時代から続いた鎌倉郡川上村の時代
2. 昭和14年に1町7か村が横浜市に編入され横浜市戸塚区が誕生した時代
3. 戦後、昭和35年に連合町内会制が始まった時代
4. 昭和62年から平成2年にかけて連合が6つに分割され現在に続く時代

「川上の100年史」としているが、特に100年前に大きな歴史的出来事があった訳ではなく、あえて記すとすれば、今年で創立128年を迎える川上小学校を軸とした地域の歴史を語る事が本編の主旨である。

色扉にも記したように、鎌倉郡川上村は江戸に近かったこともあり、代々徳川幕府の旗本による知行地として位置付けられ、東海道に面していたこともあり、農業の他にも各種産業が発達してきた事で知られている。

当然のことながら、そうした村には隣組的組織が存在したが、大正12年の関東大震災により横浜市は広い地域に渡って混乱状態に陥り、その混乱の中から「自警団」が組織され難民の救済や町の治安に大きな力を発揮したと「戸塚区地域ハンドブック」は伝えている。そして世の中が平穏に戻るにつれて自警団は解散し、青年会や町内会などが任意団体として市内各地に生まれ、自治活動を行うようになった。

そして戸塚区が誕生した翌年の昭和15年に、当時の内務省は「部落会町内会等整備要項」を訓令し、町内会を上意下達の行政組織として全国的に整備し、町内会の下に10戸前後の隣組を作らせたとある。これが現在の町内会組織の原型であるが、戦時中、行政機関の下部組織として町内会が戦争遂行の補助的役割を果たした事への反省から、戦後はあくまで住民自治のための独立した任意団体として再編成される事となった。(昭和22年に先の内務省要項が廃止され、形の上で町内会が解体された時期があったことも付記しておく)

更に戦後の復興から高度成長の時代に入ると、新しく開発された地域では、従来とは違った形の自治会が次々と結成され、これら組織間の連絡調整と広域的事業の推進を図るため、連合町内会が結成されるようになり、昭和35年に「川上地区連合町内会」が発足することとなった。

但し、昭和14年の町内会発足から連合町内会発足の昭和35年までの21年間、「連合町内会的」組織がなかったのか永年の疑問であったが、偶然にも、昭和28年に行われた太平洋戦争の戦没者慰霊碑(川上小学校に隣接する高台に建立)落成式の記念写真に、遺族約60名の後ろに飾られた花輪の名札が「町会联合会」と読める事から、既にこの時期に連合町内会の前身的組織が存在したことが窺える。

川上地区連合町内会の初代会長に選出されたのは、柏尾町内会第3代会長の齋藤萬治氏であった。齋藤萬治氏は、日本初のハム製造会社「鎌倉ハム」の3人

の創業者の1人である齋藤満平氏の孫に当たる人で、地元の実力者であった。昭和7年に発行された「川上消防組表彰記念写真帖」によると、関東大震災の後、大正15年に「公設消防組」の設置が認可されると、その「組頭」に任命され、その積極的な活動により昭和7年に神奈川県知事から表彰されるという栄誉を受けている。当時の消防組の組織や活動の様子は本誌のP. 96に詳述されているので参照いただきたい。また、彼は地元川上小学校のPTA会長を12年間も務め、更に横浜市の市議員も務めたと記録にある。



戦没者慰霊碑落成式（昭和28年）



「町会連合会」と読める

こうした実績があったことで昭和35年に連合町内会が発足した際、柏尾町内会長であった彼が初代連合町内会長に選出され、昭和43年まで8年間務めることになった訳である。旧川上地区連合町内会の規約は残っていないが、その後は連合を構成する8つの町内会の会長の互選で、連長が選出される習わしとなり現在に引き継がれている。

この川上地区は、当時の戸塚区の連合町内会の中でも西の大正地区と比肩するほどの大きな連合町内会で、以後昭和62年に4分割されるまで積極的な地域活動を展開する事となる。



川上青年団の結成式（昭和21年）

昭和56年に川上小学校で行われた「第24回川上地区体育大会」には何と23自治会町内会のチームが参加し、平和台町内会が優勝したとの記録が残されている。同じように、昭和57年に行われた連合主催の少年少女スポーツ大会は川上公園で男子はソフトボール大会（23チーム）、女子は平戸台小学校体育館でドッジボール大会（16チーム）が行われ、共に予選、決勝が別々に行われるという大規模なものであった。

町内会の発足に続き、戦後の昭和21年には川上青年団の結成式が川上国民学校（川上小学校）で行われ、各町内会から集まった50名を超える青年達の記念写真が残されている。その中には、その後平戸地区連合町内会長を永らく

務められた三枝木林治氏の顔も見える。この青年団が中心となって毎年「青年体育大会」が行われ、各町内の青年達は総力を挙げて闘ったと記録に在り、昭和24年に行われた第4回大会では柏尾町青年団が優勝し、その際の記念写真も残されている。

また、戸塚区社会福祉協議会が昭和26年に発足している事から、これと前後して連合町内会の兄弟組織として川上地区社会福祉協議会が結成されたと考えられる。

前述したように川上地区の主な町内会は昭和14年に発足したと考えられるが、戸塚区役所の設立記録は必ずしもそうっていないことも今回の編纂作業の中で判明している。因みに秋葉町町内会：昭和27年、前田町町内会：同20年、柏尾町内会：同44年、上柏尾町内会：同26年、川上町町内会：同20年、品濃町内会：同26年、平戸町町内会：同24年と記録されており、昭和14年にはどこも存在していないことになる。更に今は3つに分割された旧舞岡町内会や同じく平戸平和台町内会は、その名前すら見当たらない。

柏尾町内会では、以前からこの設立時期の検証に取り組んできたが、旧公民館に残された歴代会長の写真を頼りに、平成22年から7年の時間を費やし、本誌P.20にあるような「証拠の品」を入手することが出来、間違いなく昭和14年に町内会が設立されたことを証明することが出来た次第である。

本来ならば、本誌の編纂はそうした各町内会の設立時期を検証する事が重要な課題であり、未達のまま終わってしまうのは誠に残念であるが、今後行政とも連携し、時間を掛けてもそうした検証作業を継続すべきと考えている。

戸塚区は京浜工業地帯の西の端に位置する関係で、川上地区も古くから東海道沿い、或いは柏尾川沿いに大小の企業が事業所を構えている。戸塚区誕生の1年前の昭和13年に（株）ブリヂストン横浜工場が操業を開始し、それに続く形でポーラ化成工業（株）や山崎製パン（株）横浜第一工場が操業を始めた。更に、昭和55年には本誌P.116に紹介したように永年の願いであったJR東戸塚駅が開業となり、続いて昭和60年には地下鉄舞岡駅の開業となった。

そうした時代背景もあり、東戸塚地区を中心に人口が急増し、それに合わせた形で連合町内会に加入する自治会町内会も増え、相互の連絡調整を目的とした連合町内会の運営にも支障を来すこととなった。更には、個々の町での自治会運営に関する考え方の違いも目立つようになり、統一した方針で運営する事が難しくなってきた。

そうした事情を鑑み、昭和60年頃から連合を分割する考え方が出されるようになり、色扉で記したように、昭和62年に4つに分割された旧川上地区は、更に平成2年にそこから2つが独立して結果的に6つに分かれることになり、旧川上地区連合町内会の歴史は、前田町町内会、秋葉町町内会を核とした新しい川上地区連合町内会へ引き継がれる事となり現在に至っている。

2. 平戸平和台地区連合町内会の沿革

(1) 江戸時代の平戸平和台

平戸平和台地区は、戸塚区の東の端に位置し保土ヶ谷区と南区に接しています。

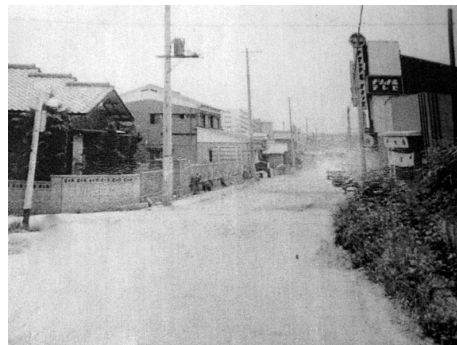
この地域は昔から相模国と武蔵国との境にあたり境木と呼ばれていました。この地におけるお目付け役として、旗本杉浦氏の代官職萩原家が屋敷を構え、幕末から明治初年の当主 太郎行篤は嘉永4年(1851)に直心影流の免許皆伝を得て、ここに道場を開きました。萩原家所蔵の「剣客名」には安政5年(1858)8月に「天然理心流・近藤勇」の名が記されており、新選組の近藤勇がこの道場に來たことが証明されております。今でも代官屋敷*と道場跡は残っています。
(*:史跡旧跡編を参照)

(2) 平戸平和台の誕生

平戸平和台地区は、昭和30年代初期に山林や田畑を造成し、個人住宅や大手企業の社宅が建設されました。昭和38年有志の発起により「平戸平和台町内会」が結成されました。その後町内会員の増加にともない会館の必要性が生じ、会員並びに社宅企業から寄付を募り昭和48年に町内会館を建設しました。



昭和33年当時の造成風景



昭和38年当時の道路

町内会員は年々増え続けましたが、電話が架設されず再三にわたり電話局と交渉して特例の団地電話*として仮設され、交換機は現在の平戸幼稚園下(現、山崎氏宅の所)に設置されました。

町内の道路は造成時代のままで雨が降るとヌカルミとなり長靴でなければ歩けない状態が数年間続いていましたが、町内に事業所を構える「浅野セメント」様のご厚意により、生コンの廃材をいただき、会員総出で道路に敷きました。そして横浜市に移管されるまでの間を過ごしてきました。

平成元年当時町内会長を務めていた堤健一氏は「会員が多くなりこのままでは町内会の運営が難しくなるから、この際町内会を小さくして連合体制にしてはどうか?」と提案し、小委員会を設置して検討した結果三つに分割することになりました。

平成2年4月22日境木小学校体育館において、平戸平和台町内会の解散と平戸平和台地区連合町内会並びに平戸一丁目・平戸二丁目・平戸三丁目町内会

の発足総会を開催して、平戸平和台地区連合町内会が誕生しました。

*:団地電話とは、集合住宅の建物内に交換機を設置し、1回線を2軒で使用する方で、使用の少ない住宅向けの電話をいう。

(3) 平戸平和台の現在

平成7年12月に東戸塚駅から境木中学校間に小型バスの運行が開始されました。そのバスが平戸二丁目循環となり東戸塚駅までの通勤・通学・買い物が便利となり、人口の増加が著しくなっております。また現在、開発当時の住宅が解体され戸建て住宅の建設が進んでおり更に人口の増加が予想されます。

平戸平和台地区の小学生は3校に分かれて通学しています。国道1号線南側の平戸一丁目の子ども達は南区の六つ川西小学校に、国道1号線北側の平戸二丁目の子ども達は平戸小学校に、平戸三丁目の子ども達は境木小学校にそれぞれ通学しているため、イベント開催には3校の予定と重ならないよう日程を調整して運営しています。

町内会館は昔の平戸平和台町内会当時に建設した会館を現在でも使用しており連合町内会の連帯感は今でも保たれております。

(4) 蒔田野桜

蒔田野桜は、昭和34年4月16日に平成天皇陛下のご成婚記念として地元の有志（蒔田野土曜会）が植樹したもので、地域の発展と共に成長し、毎年近所の方々が開花を楽しみにしています。平成18年4月に「蒔田野桜 皇太子御成婚記念樹」の碑を建て四目垣で囲い、多くの人々に愛される桜として末永く見守っていただけるように管理されています。



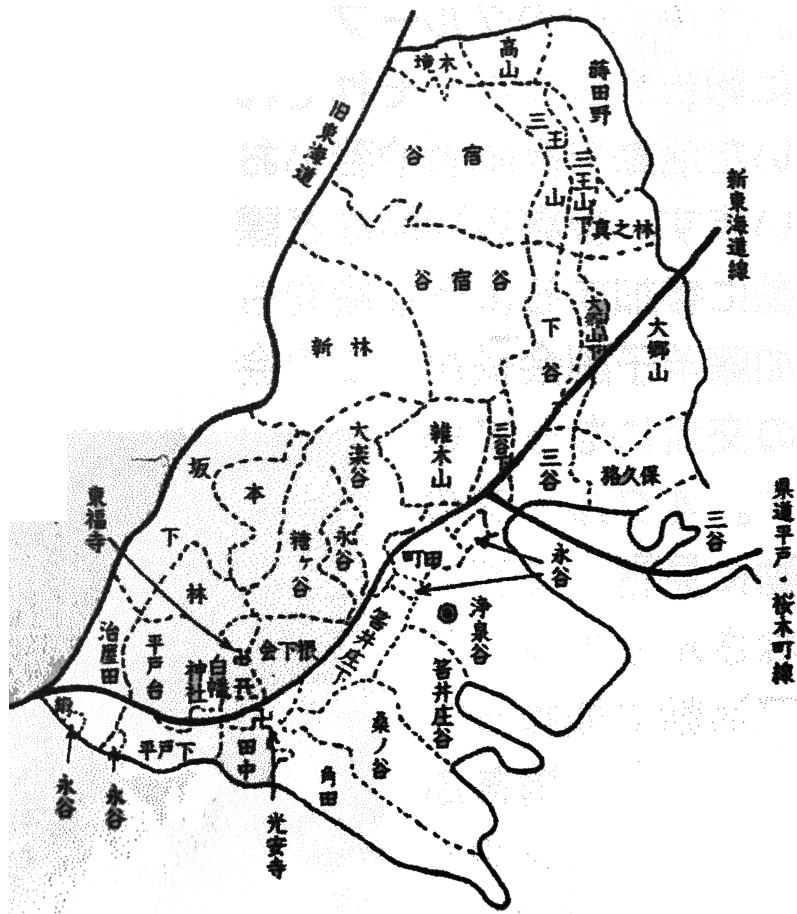
平成天皇ご成婚記念：蒔田野桜

* 平戸平和台地区連合町内会歴代の会長

初代会長	小林 耕	(平成2年4月～22年3月)
第2代会長	望月 信	(平成22年4月～27年3月)
第3代会長	内山 正行	(平成27年4月～27年12月)
第4代会長	伊東 春雄	(平成27年12月～現在)

* 平成30年4月現在の加入世帯

平戸一丁目町内会	893世帯
平戸二丁目町内会	985世帯
平戸三丁目町内会	1,089世帯
合計	2,967世帯



明治時代の平戸平和台・平戸地域

3. 平戸地区連合町内会の沿革



新林(しんばやし) 現在の電電戸塚団地開発時の風景

(1) 平戸地区の発足と昔の生活

平戸地区連合町内会は、昭和62年4月川上地区連合町内会から分離独立し発足しました。そして3年後の平成2年4月に平戸一丁目・二丁目・三丁目³が分離し、平戸平和台地区連合町内会として独立しました。

平戸地区は、東戸塚駅東口オーロラモール街を通り環状2号線を渡ると旧東海道に出ます。この道が品濃と平戸の境となります。そして南区六ッ川と港南区芹が谷までの平戸町および平戸四丁目・平戸五丁目⁴が管轄区域です。

平戸地区は、中央の東西に国道1号線、南北の丘に小中学校3校、その西側に農業専用地区『平戸果樹の里』が位置しており、終戦後（昭和22年当時）は200に満たない世帯が生活しておりました。

昭和30年代後半から宅地開発が進み、国道1号線南側の小高い丘を造成して県営平戸団地や戸建て住宅が建設され、北側では新林の山⁵が造成されて、電電戸塚団地が誕生し大幅に人口が増加しました。

また、昭和55年10月に横須賀線東戸塚駅が開業したことにより、人口増加は更に加速され、現在では5,000を超える世帯の人々が生活しています。

昭和30年代後半に造成が開始されるまで平戸村は、七つの谷戸（谷宿谷・下谷・大楽谷・糠ヶ谷・桑ノ谷・筈井庄谷・浄泉谷）に住居を構えて生活していました。それぞれの谷戸に住んでいる人々は毎月1回「お宿」と呼ばれる家に集まりお念仏を唱え、世間話や情報交換を行っていました。

現在でも3ヶ所で継承されており、毎月15日にはお宿に集まり数珠を回して念仏を唱え世間話や昔話に花を咲かせ、近所の絆を強固なものにしています。

写真の数珠は昭和2年に製作されたと記されており、90年以上の長い間使用されています。



お念仏の数珠

(2) 平戸果樹の里

平戸の中央に位置して平戸小学校・みはらし公園・平戸中学校の小高い丘の西側を中心に果物を栽培する農家が集まっており、ここを『平戸果樹の里』といます。

耕作面積は約80,000㎡と狭いため市街化区域内で農地緑地制度の下で農業を営んでいました。昭和55年東戸塚駅開業により駅から国道1号線までの間を宅地化する旨の通知を横浜市より受け取りました。しかし、これでは「緑が無くなってしまふ。農地を守るんだ！」と農家が立ち上がり、当時の横浜市緑政局・都市計画局・農政事務所等に陳情して、逆線引きという形の特別に市街化調整区域の指定を受けました。今では農業専用地区として緑地保全・農業

の維持管理に努めています。また、都会のオアシスとして近隣の住民や東戸塚駅周辺に住む人々の緑の散歩道として喜ばれています。

『浜なし』のルーツは平戸にあると言われていています。昭和30年代半ばに当時農家が生活のために野菜を引き売りしていましたが、その帰り道に八百屋に立ち寄り隅にあった梨の苗を買って育てたのが始まりとされています。

その後、10年程して果実が実り、口こみでお客様が広がり、宅配業者にお願いして全国への発送を始めた矢先の宅地開発の話であったため、強い意志で農地存続に当たり、今日のブランド梨『浜なし』が誕生しました。

現在では、梨の栽培だけではなく「柿・みかん・ぶどう」等も栽培しており、毎月定例会を開催して情報交換や栽培技術の研鑽に励んでいます。



平戸果樹の里

(3) 川上公園

川上公園は昭和24年、当時の光安寺住職長谷川達成氏が、青少年の遊び場と住民の憩いの場の必要を感じ、同寺所有の土地を提供し公園作りを提唱したことに始まりました。当時の川上地区（舞岡・上柏尾・下柏尾・前田・川上・品濃・平戸）各町内会および各種団体協力のもとに、設立協議会（会長：齋藤萬治氏）が組織され、4,500名の公園設立要望の署名を集め、昭和25年2月に起工しました。

工事は川上地区・下永谷地区各町内会の協力と、両地区住民の労働奉仕によって、昭和26年に200mのトラックを備えた運動公園として竣工しました。

同年5月、平沼横浜市長はじめ日本代表オリンピック選手、南部忠平（三段跳び）、田島政次（走り幅跳び）、菊池由紀夫（長距離）、高橋進（マラソン）澤田文吉（棒高跳び）の各氏の模範演技の披露を得て、開園式を行ったことが、公園に設置されている陶器の銘板に記されています。

その後、旧川上地区や平戸地区での運動会は、永く川上公園で行われています。なお、昭和37年には横浜市のパークとなり、今日に至っています。

(4) 現在の連合町内会の状況

平戸地区連合町内会は9自治会町内会で発足し、交流を高めるために「運動会・ふれあいの集い・餅つき大会」などの行事を発足当初から行っています。

また、毎月各自治会長・各種団体の代表・学校長などが集まり行政機関からの連絡事項や行事開催時の役割分担など情報連絡会(広報部会)を開催しています。

公園清掃では愛護会のメンバーのみならず小中学校の PTA や自治会町内会の役員、公園を使用する団体も参加して清掃を行っており、夏には花火大会・秋にはさつま芋収穫祭などのイベントも開催して、多くの人に喜んでいただいています。



餅つき大会



ふれあいの集い



公園清掃

近年、県営平戸団地では中国・台湾・フィリピンなど東南アジア諸国の入居者が増加しており、ゴミ出しなどの生活ルールが分からない人や自治会への入会拒否、顔見知りの方が少なくなってきたなどの問題を抱えています。このため、災害に備えて各自治会ではきめ細かな対応を行っています。この地区は大災害に対する避難場所(地域防災拠点)は、国道を挟んで二分されています。従って、それぞれの拠点ごとに運営委員会を組織して避難してくる住民の安全確保に対応することにしています。

毎年防災拠点の訓練を実施していますが、訓練終了後は平戸小学校、平戸台小学校の両拠点の運営委員が集まり意見交換を行いより良い運営を目指しています。

電電戸塚団地自治会では、要援護者を登録し日頃より支



すみれ会の余興

援者と面談して災害に優しい街づくりを推進しています。芹が丘自治会では、4か国語の「安否札」を作成し、災害発生時(訓練実施時)には、玄関先などの見やすい所に掲げ救援者のタイムロスを防ぐ対策を行っています。

一人暮らしの高齢者に食事を提供する『すみれ会』を開催しています。

料理は、民生委員、女性部、消費生活推進員、保健活動推進員、子ども会、交通安全母の会の方々が輪番制で実施し、食事だけでなくボランティアの方々の余興やゲストを招いて落語や歌謡曲合唱・尺八演奏など楽しいひと時を過ごしていただいております。



安否札

平戸地区は、前述の通り国道1号線と環状2号線以外は狭い道路や路地・階段など山坂が多く高齢者が生活するにはちょっときつい所です。また、病院（内科・外科等）・金融機関・郵便局・スーパーマーケットなど生活に必要な施設がありません。

このため、高齢者のために病院やスーパーマーケットへの送迎、庭木の剪定・草刈り・散歩の付添・電気交換・小修繕などボランティアによる生活支援が活発に行われています。高齢者の引きこもりや孤立を無くし外に出て児童に声をかける「挨拶運動」などを行い、楽しく暮らしていただくよう地域ぐるみで対応しています。

『心のかよいあう街・ずっと住みたい街 ひらど！』を合言葉にそれぞれが協力して『ああ、ここに住んでいて良かった！』と思われるような街にして行きたいと思い、色々な取組みを行っています。

平戸地区連合町内会は、発足時は9自治会町内会が加入していましたが、企業社宅の閉鎖と連合町内会からの脱退により、現在は7自治会町内会が加入しています。

歴代の会長及び加入自治会町内会は以下の通りです。

初代会長	三枝木 林治	(昭和62年4月～平成22年3月)
第2代会長	岩崎 幸雄	(平成22年4月～平成30年3月)
第3代会長	相澤 辰信	(平成30年4月～現在)

【加入自治会町内会】

・平戸町町内会	昭和24年 4月設立	1, 380世帯加入
・平戸住宅自治会	昭和39年10月設立	83世帯加入
・芹が丘自治会	昭和40年 4月設立	455世帯加入
・電電戸塚団地自治会	昭和42年 4月設立	1, 190世帯加入
・平戸高層団地自治会	昭和52年 4月設立	768世帯加入
・緑の街自治会	平成元年 10月設立	144世帯加入
・コスモ東戸塚グランパルク自治会	平成 2年 4月設立	175世帯加入
	合計	4, 195世帯

(*平成30年4月現在の加入世帯数)

「川上の100年史」発刊に寄せて

前平戸連合町内会会長 岩崎 幸雄

「川上100年史」に寄せて、昨年体調を崩し最後まで参加できなかったことをお詫びいたします。昭和9年に平戸で生まれ川上小学校を卒業しました。

20歳で地区の消防団に入り72歳までの52年間消防団員として地区の皆様と一緒に防火防災に携わってきました。皆様方のお力添えのお陰で平成

25年秋の叙勲にて瑞宝単光章を受賞することができました。

また、平戸地区連合町内会の第2代会長を皆様の温かいご支援とご協力により、8年間務めることができました。今回、旧川上村6連合町内会が集まり100年史を編纂できたことを心からお祝いいたします。



編纂委員の皆様ありがとうございました。

4. 東戸塚地区連合町内会の沿革

(1) 歴史

東戸塚地区は、かつて江戸時代には東海道の宿場町として賑わっていた。今も史跡として「品濃一里塚」が残っている。しかし明治期になると、横浜が京浜工業地帯の一角として巨大都市に発展する一方で、東戸塚地区は鉄道、国道により分断された“陸の孤島”を余儀無くされてきた。鉄道駅がなく経済活動から取り残されてきたのだ。市民の絶え間ない誘致活動が実り、国鉄東戸塚駅が開業したのは、昭和55年。新駅開業を契機に、民間主導の東戸塚の本格的な街づくりが進められてきた。翌昭和56年には、超高層住宅、ショッピングモール、文化施設等を複合したニューシティ東戸塚も起工、発展を遂げてきた。



昭和60年、新しい街づくりがこの頃から進められてきた（写真：新一開発興業）

昭和62年に旧川上地区連合町内会から分離独立し、横浜市政100周年の年、昭和63年4月16日に川上町・品濃町にある町内会・自治会が一体となって「東戸塚地区連合町内会」を結成し、将来の副都心に備えた活動をするようになった。

21世紀の街づくりを目指す当地区は、無限の可能性を目指した若い街として注目されるようになった。「住んでみたい街・住み続けたい街 東戸塚」を合言葉に、住民の声を大切にしたい運営を念頭に、連合町内会が発足した。

歴代連合町内会長

初代 石井 昭一（昭和63年～平成16年3月） 川上町町内会
第2代 齊藤 安治（平成16年4月～19年6月） 品濃町第一町内会
第3代 常盤 欣二（平成19年6月～現在） 品濃町内会

加入団体（発足時）

川上町町内会、品濃町内会、品濃町第一町内会、
シーアイマンション東戸塚町内会、川上第一団地分住自治会、
川上第一団地県営アパート自治会、川上団地分譲アパート自治会
川上第二団地自治会 光の街自治会、三菱油化戸塚アパート自治会、
（世帯数：2, 867世帯）

平成30年5月時点の加入団体

川上町町内会、品濃町内会、品濃町第一町内会、
シーアイマンション東戸塚町内会、川上第一団地分住自治会、
川上第一団地県営アパート自治会、川上団地分譲アパート自治会、
川上第二団地自治会、東の街自治会、フォートンヒルズ自治会
（世帯数 4, 121世帯）

現在の課題は、高層マンションの住民たちともいかに交流を進めていけるか、である。高層マンション群は自治会未結成がほとんどで、地区連合町内会に加入されていない方が全体の60%を占めている。防災拠点は、川上北小学校・品濃小学校・東品濃小学校と3校に分かれそれぞれの学区を基準に結成している。

今後の防災対策、自助共助を考えると、地区全体での活動が望ましく、そのための方策を検討しながら取り組んでいく必要がある。

（2）連合町内会としての主な活動

① 定例会（毎月18日以降の最初の土曜日）

出席者 地区連合理事（町内会自治会会長、事務局、会計、監事）及び
各種団体代表（青指・スポ進・保活・防犯・民児委員・婦人連絡会・
家防・消防団・交通安全・交通安全母の会・環境事業推進員・消費生活推進員・主任児童委員の代表）13名と
川上北小・品濃小・東品濃小の校長・地区センター館長・地域ケアプ
ラザ所長・とつか区民活動センター長
議 題 戸塚区連合町内会自治会連絡会の報告及び地区連合の行事などの
提案・報告と各種団体の活動報告など。

以下に東戸塚地区連合町内会・社会福祉協議会で開催している主な活動を紹介する。

② 体育大会（例年体育の日開催）

平成29年が第30回大会にあたり地元事業者から多様な賞品を提供して



体育大会：町内対抗リレーの様子

頂き盛大に開催することが出来た。しかし、極端に高齢化が進んでいる自治会と新しくできたマンションなどは年齢層が若く、双方のバランスをとるため、対抗競技などは他チームとのトレードと称して、他チームに選手を貸し出すことができるようにし、すべてのチームが全種目にエントリーすることを原則に実施して

いる。

従って、優勝チームには、従来賞金・トロフィーと表彰状を出していたが賞金は出さないことにしチーム間の親睦を図ることを主眼に置いて開催している。これによりチームを超えた交流が一層活れるようになった。

③ 凧揚げ大会（建国記念日に開催）



凧揚げ大会の様子

親子や祖父母と孫で自作の凧を造り揚げることにより、家族の絆を深めることを目的に開催。年々参加者が増え5～600名が参加し盛大に開催している。

大勢が参加する行事なので戸塚警察署からパトカーや白バイを派遣していただき、交通事故根絶を願い大根300本を取り寄せ交通ルールを

守る「誓」を書いた方々に配布し、交通事故減少に成果を上げている。

④ 施設見学会

役員・会員の視野を深める活動として施設見学会を開催。日本航空整備工場やJAXA宇宙開発センター・アサヒビール足柄工場・横浜港港内施設見学会・東京ガス「がすてなーに ガスの科学館」など、年1回開催している。



日本航空整備工場見学

⑤ 高齢者を対象とした活動

高齢者食事会（2回/年） ひとり暮らし高齢者食事会（2回/年）

高齢者の食事会とひとり暮らし高齢者食事会を川上町と品濃町・上品濃の人を対象に各2回ずつ開催。それぞれに警察・消防署に来ていただき講話を頂いた後、ゲストに来ていただきみんなで歌を唄ったりして楽しんでいる。

⑥ 地域ネットワーク訪問事業

ひとり暮らし高齢者・高齢者のみの世帯、寝たきり高齢者、認知症高齢者などを対象に、民生委員・児童委員による定期訪問を実施。小冊子「お元気ですか」を作成、配布し、情報提供などを行っている。

⑦ 子育てサロン「しゅつぽっぽ」 11回/年

0～2歳児の子育て世代を対象に、親子バレー、お話コンサート、にじいろ絵本を基に、子育て世代の情操教育に取り組んでいる。

⑧ 民生委員・児童委員を中心とした見守り活動

高齢者から、乳幼児まで、幅広い世代に向けて「住みよい街」「住んでみたい街」を実感してもらえるよう自治会・町内会では世代を超えた取り組みに積極的に取り組んでいる。

しかしながら、パークヒルズや丘の街、タワーズでは高齢化が進んでおり、月1回民生委員が作成している「お元気ですか」を高齢者宅に配布しながら訪問し安否の確認をしているが、マンション独自の「向こう3軒両隣り」の関係を築き見守りができる関係を築いてほしいと願っている。

「新しい街」東戸塚といっても築30年以上たっているマンションも多く、住人の年齢は70才を超える世帯が多くを占めてきつつある。

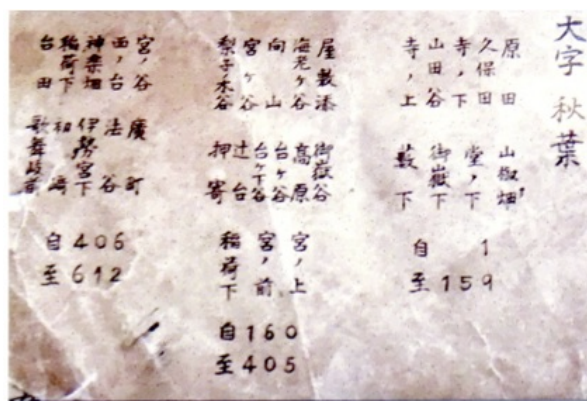
今年に入って東戸塚駅前の高層マンションで孤独死も発生しており、「自治会・町内会の活動が嫌だから此处に引っ越してきた」と言っている場合ではないと思うが・・・。

5. 川上地区連合町内会の沿革

(1) 秋葉町・前田町の変遷

写真は明治17年(1884)頃の大字(おおあざ=地区名称)秋葉の字別地番である。33の字=集落呼称があり、現在の番地がどこの集落であったかを示している。当時の世帯と人口は、秋葉20戸・人口110人、前田22戸・人口101人であった。

明治の町村合併により秋葉村は鎌倉郡中川村に、前山田村、後山田村は鎌倉郡川上村に併合され、昭和14年横浜市併合の際に中川村大字「秋葉」が「秋葉町」に、川上村大字「前山田」と同「後山田」の一部が「前田町」となった。



「大字秋葉」の集落「字」別地番

(2) のどかな農村

旧川上地区は鎌倉、横浜港に近く国道1号線、東海道線が走り平戸永谷川が並行して流れ柏尾川に合流している。小高い山々が連なり田畑が広がるのどか

な農村が中心の村であった。港横浜の汽笛を耳にしながら稲作に加えて炭焼きや牧畜（牛、豚、鶏）養蚕などで生活していた。子ども達が遊ぶ所といえば、小高い山々に囲まれた尾根や獣道、稲作の終わった切株のある田んぼの中を駆けずり廻ったり、夏は川で泳ぐのが日々の楽しみとしていたそうである（学校では遊泳を禁止していた）。また、農業を営む家の子ども達は、学校帰りに鞆を放り投げて遊ぶ仲間たちを、羨ましそうに見ながら家路を急いでいた。

農村時代には狸や狐、猪が出没していたようだ。東海道線路沿いには列車から投棄された残飯を漁りに狸や狐が山を下りてきていたようで、そうした狸を狸汁にして食していた時期もあったそうだ。高度成長時代になって工場や住宅の開発が進むにつれ、行き場を失った大きな猪(体重約 100kg)や狐、狸等が出没してきたとの伝聞もある。

（３）企業誘致と宅地開発

昭和 10 年今の秋葉第四公園附近の 500 坪(1,650 m²)程の敷地が千疋屋(銀座千疋屋)誕生の地である。重油でボイラーを焚き温室でバナナやパイナップルを生産していた。



千疋屋の温室

昭和 35 年頃から高度成長期に入り、川上地区周辺でも工業用地の整備がすすみ、国道沿いに多くの企業が誘致された。

昭和 35 年秋葉三叉路前には横浜市の誘致により、皇室御用達の高級陶器メー



秋葉三叉路近くの大倉陶園本社

カー大倉陶園の本社・工場が東京蒲田から移転してきた。2019年に創業100周年となる同社では数々の銘品をここで製作し続けている。同社によると「移転当初、河川の氾濫に悩まされた時期もあったが、当時としては広大な敷地と、豊かな自然環境に恵まれ、高級陶器の製造には好適な地であった」とのこと。

昭和 37 年 前田町の国道 1 号線沿いには大手自動車照明部品メーカー小糸製作所横浜工場が操業開始 [後に小糸工業(現KIホールディングス)本社となり、小糸製作所の自動車照明以外の鉄道照明や交通システムなどを手がけている]。この頃から永谷川や柏尾川沿いの田畑で工業用地の開発がすすみ、その後多くの企業が進出してきた。

東京のベッドタウンとして住宅開発がさかんになったのも昭和 40 年頃からであった。秋葉町、前田町の緑豊かな丘陵地帯で大規模な宅地造成開発事業が始まった。現在の「日鉄秋葉台団地」は、かつて東京文明堂創業家の邸宅が建つ

丘陵地であったが、昭和41年頃の造成により現在の住宅地となった。

昭和55年の東戸塚駅開業に伴い宅地化が加速、昭和52年に前田町に市公社「前田ハイツ」440戸が完成、大規模集合住宅の先鞭をきった。平成20年には前田町の味の素研究所跡地に743戸の「グランドメゾン東戸塚」、平成28年には秋葉町のアサヒ製作所跡地に399戸の「シティテラス横浜戸塚」が竣工、前後して秋葉町の住友ベークライト研究所跡地にも大規模戸建住宅地が開発されるなど、工場・研究所跡地を住宅地に転用することも増えている。



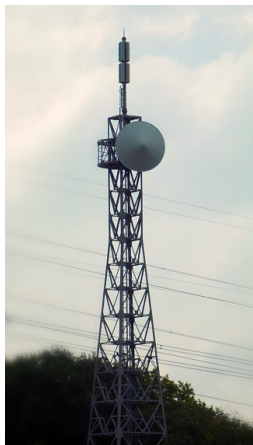
丘陵の緑に映える「グランドメゾン東戸塚」
写真提供：同自治会

(4) 秋葉踏切の立体化とテレビ塔設置

昭和3年に中川村名瀬と秋葉の間に切通しの新道「名瀬道路」(現在の秋葉三叉路から緑園5丁目間の名瀬川沿いの横浜市道)が開通した。この道路開通により牛馬車などの通行が楽になり、直接東海道に繋がったため戸塚方面や横浜方面に行くのに便利になった。しかし、企業誘致や宅地開発により交通量が増大し、昭和36年に秋葉無人踏切で工事車輛と湘南電車の衝突事故が2回(1月と8月)発生した。このため、無人踏切は自動遮断機付き踏切となったが、朝夕のラッシュ時には開かずの踏切となり、通勤通学に支障をきたしていた。そして、念



秋葉立体交差陸橋



中継所の鉄塔

願であった秋葉踏切の立体化が昭和55年に完成

した。秋葉三叉路から平戸永谷川と東海道本線、国道1号線を渡り、また国道1号線にUターンするという変形した約370mの陸橋である。この陸橋の完成により国道1号線にスムーズに出られるようになった。

また、川上地区の一部でテレビの受信状態が悪く、平成23年7月のテレビ放送完全デジタル化に向けて困惑していた。NHK及び民放5社が難視聴対策として中継局の設置を検討していることを察知し、各方面への調整・交渉等を経て長蔵寺所有の高台のグランド下に、

海拔 70 m・地上 33 m の「戸塚デジタル中継所」が建設された。これにより
 周辺の難視聴問題が解消された。

(5) 歴代の会長と現在加入の町内会・自治会

歴代の連合町内会長と在任期間

代	会長	所属町内会	在任期間
初代	齋藤 萬治	柏尾町内会	昭和 35 年～昭和 43 年
第 2 代	田中 甲子	平戸町町内会	昭和 43 年～昭和 51 年
第 3 代	齋藤 徳次	上柏尾町内会	昭和 51 年～昭和 53 年
第 4 代	金子 欣二	舞岡第二町内会	昭和 53 年～昭和 55 年
第 5 代	鈴木 嘉一	秋葉町町内会	昭和 55 年～平成 5 年
第 6 代	木内 義一	前田町町内会	平成 5 年～平成 7 年
第 7 代	指方 良雄	秋葉町町内会	平成 7 年～平成 11 年
第 8 代	村山 幸一	前田町町内会	平成 11 年～平成 15 年
第 9 代	大久保 忠亮	秋葉町町内会	平成 15 年～平成 23 年
第 10 代	田中 猛	前田町町内会	平成 23 年～現在

現在加入の町内会・自治会

前田町町内会	昭和 20 年 8 月 15 日	1, 450 世帯
秋葉町町内会	昭和 27 年 4 月 1 日	1, 860 世帯
前田ハイツ自治会	昭和 54 年 7 月 22 日	400 世帯
グリーンコーポ東戸塚自治会	昭和 59 年 6 月 1 日	139 世帯
グランドメゾン東戸塚自治会	平成 22 年 7 月 4 日	743 世帯
(平成 30 年 5 月現在) 計 4, 592 世帯		

*盆踊り大会、夏祭り、敬老会、レクリエーション大会、焼き芋大会、どんど焼き、
 わくわくサポート隊など、町内会・自治会などで特色のある行事を開催している。

(6) 近年のトピック

①秋葉小・中学校



造成・建設中の秋葉小中学校

昭和 60 年に横浜市で初の小・中一貫校として秋葉小学校と秋葉中学校が開校し

た。秋葉中学校で開催した記念イベントで、種を付けて飛ばした風船が、千葉県
の老夫婦宅に落下したことが縁で、このご夫婦を招待したことがあり話題になった。

②エコ活動と友好協定

平成22年に川上地区「エコ活動委員会」を立ち上げ、節電チャレンジ（環境家計簿）を実施した。この取組が評価され平成25年12月に「環境大臣賞」を受賞した。同時期に北海道の森林育成で二酸化炭素を吸収させる「カーボン・オフセット」などの取組で表彰された北海道上川郡下川町と横浜市戸塚区と川上地区連合町内会の三者による『友好協定』が締結された。この友好協定は、環境分野だけにとどまらず青少年交流、都市と農業・林業分野との交流を展開している。



環境大臣表彰後 林横浜市長とともに

③社会福祉活動

地域のボランティアによる社会福祉活動に熱心に取り組んでいる。川上地区社会福祉協議会は平成28年に地域の福祉向上の活動、特に中間支援組織の機能を発揮する『活動委員会』、住民力向上の一助を担う『福祉活動発表会』の開催などが評価され、全国社会福祉協議会より「優良活動表彰」を受賞した。



賞状、メダルを手にする活動委員

このほかに一人暮らし高齢者食事会「若葉会」、子育てサークル「ぶらんこ」、ふれあいサロン「ひまわり」、男の料理教室、社会を明るくする運動などの行事を行っている。

「川上の100年史」発刊に寄せて

前川上地区連合町内会会長 大久保 忠亮

私は、六つに分割された後の川上地区連合町内会の5代目の会長を務めました。皆さんと一緒に、地区内の共通する課題の解決や事業の展開により、地域の発展と住み良い街づくりを実践してまいりました。

この度、素晴らしい「100年史」の発刊は、地域住民にとって非常に有意義な事であると思います。編集者の皆様に心より感謝申し上げます。



6. 柏尾地区連合町内会の沿革

(1) 柏尾町内会・上柏尾町内会の発足

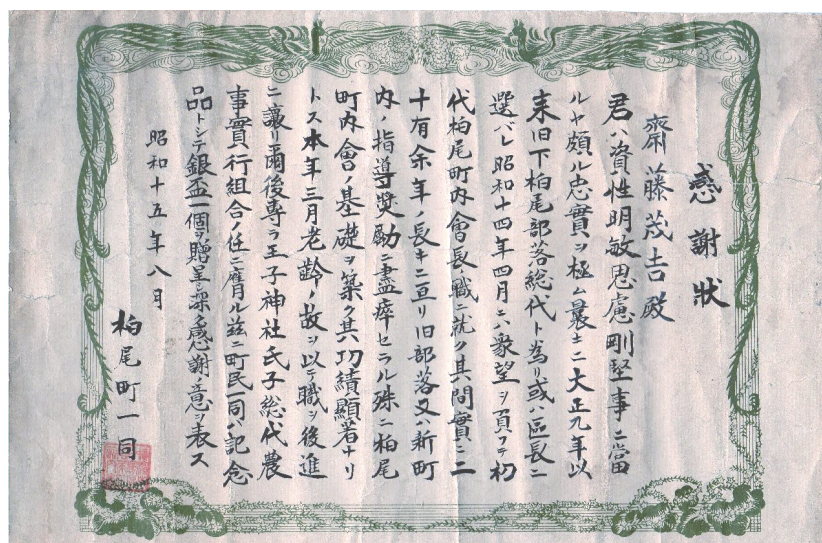
柏尾地区連合町内会は、旧東海道沿いの戸塚区柏尾町、上柏尾町の区域に居住する住民で組織されており、具体的な目安としては、五太夫橋から不動坂を抜け、国道1号線に沿って両側に展開し、赤関橋までの約2kmの区間で、平成2年4月1日に旧川上地区連合町内会から分離独立して現在に至っています。

連合を構成する町内会・自治会は平成30年4月現在9自治会町内会で、加入会員数は約3,600世帯となっています。

それぞれの自治会町内会を成立順に紹介しますと、柏尾町内会、上柏尾町内会から始まります。これらの組織がいつから活動を始めたのか永年不明で、数年前区役所へ問い合わせましたが、詳細は分かりませんでした。

戸塚区役所が平成元年に発行した「戸塚区史 区制50周年記念」誌には「昭和14年に、鎌倉郡戸塚町・瀬谷村・川上村・中川村・豊田村・本郷村・中和田村・大正村1町7か村の横浜市への編入決議。…戸塚区誕生」との記述がみられます。これは、それ以前この地域が「鎌倉郡川上村下柏尾／上柏尾」と呼ばれていたものが、前述の横浜市への編入の際、「横浜市戸塚区柏尾町・上柏尾町」として新たに誕生した事を示しています。また昭和16年に「横浜市町内会結成記念大会開催。戸塚区の結成総数は61町内会」とあることから、少なくともこの時点で「柏尾町内会」「上柏尾町内会」は結成されていたと考えられますが、具体的な年月を表す記録が見つかりませんでした。

ところが平成28年11月、偶然にもある機会に、その年代が判明しました。それは、柏尾町内会初代会長齋藤茂吉氏に贈呈された添付写真の感謝状の文面からであります。



齋藤茂吉氏への感謝状

この感謝状を意識すると以下ようになります。

「 感謝状

齋藤茂吉殿

君は資性明敏にして思慮剛堅^{ごうけん}、事に当たるや頗る忠実^{すこぶ}を極む。

先に大正9年以来旧下柏尾部落総代となり、或いは区長に選ばれ、昭和14年4月には衆望を負って初代柏尾町内会長の職に就く。その間実に20有余年の長きに亘り旧部落又は新町内の指導奨励^{しんすい}に盡悴せらる。殊に柏尾町内会の基礎を築くその功績顕著なりとす。本年3月老齡の故を以って職を後進に譲り、爾後専ら王子神社氏子総代、農事実行組合の任に当たる。茲に町民一同は記念品として銀杯一個を贈呈し深く感謝の意を表す。

昭和15年8月

柏尾町一同 』

この感謝状は、柏尾町内会初代会長齋藤茂吉氏の孫にあたる齋藤正二氏（齋藤牛肉店社長、平成29年6月逝去）から提供された資料で、「祖父の古い資料を片付けた際に見つかった」とのことです。これに拠れば、柏尾町内会が昭和14年4月に、つまり平成30年から遡って79年前に設立されたことが明確に記されており、永年の謎が解明されることになりました。

こうした大切な資料を大事に保存されてきた故齋藤正二氏に心から感謝すると共に、この間多くの役員、町民によってこの町が支えられてきたことを改めて実感した次第です。

このことから、兄弟組織である上柏尾町も同時期に町内会組織を立ち上げたと考えております。

平成30年4月時点での柏尾町内会の加入者数は、約1,000世帯、上柏尾町内会のそれは約700世帯となっています。

（2）新たな自治会群の誕生

柏尾小学校が川上小学校から分離独立した昭和44年以降、この地域は東海道沿いに大小の企業の工場進出が進んだ事で急速に人口が増加し、更に昭和50年代に入ると大規模な宅地開発が進み、多くの自治会が誕生しました。

もっとも古い自治会は、県営柏尾アパート自治会で、昭和32年4月に約70世帯で発足しましたが、残念なことに建物の老朽化等のため、平成29年11月、60年の歴史を閉じることになりました。

昭和49年4月には、上柏尾町の奥の高台、港南区と境を接する場所に柏尾台自治会（現会員数約350世帯）が誕生し、それに続いて昭和52年2月、今度は柏尾町の奥の高台、舞岡町と境を接する場所に柏尾富士見台自治会（現会員数約460世帯）が誕生し、更に柏尾小学校に隣接する県有地内に、昭和54年4月に県営柏陽台アパート自治会（現会員数460世帯）が誕生するに

及び、市立柏尾小学校を中心とした地域の環境整備が一気に進みました。そして東海道線秋葉踏切に隣接して、同じく昭和54年東戸塚マンション自治会も誕生する事となりました。（現会員数70世帯）また上柏尾町の赤関橋の近くに昭和60年4月、東戸塚グリーンハイツ自治会（現会員数70世帯）が誕生しました。

その後しばらく大型の宅地開発はありませんでしたが、旧川上小学校の隣りに在ったブリヂストン横浜工場の社宅「殿ヶ谷アパート」（約200世帯、柏尾町内会に所属）が老朽化のため解体となり、その跡地に平成13年4月に出来たのが横濱優彩の街自治会で、現会員数は約150世帯となっています。

そして10番目に加入することになったのが、東海道線大山跨線橋の脇、柏尾川沿いの旧児玉化学工業跡地に平成26年4月に出来たグランセレッソ横濱戸塚自治会で、現会員数は約320世帯となっています。

こうした経緯を経て、柏尾地区連合町内会は現在9町内会自治会で構成、運営されています。

（3）歴代の連合町内会長

連合町内会を代表する連合町内会長は任期2年で、9自治会町内会の会長会で互選の形を取っており歴代の連合町内会長は、以下の通りです。

初代	益田庄作	（平成2年～平成4年	柏尾町内会）
第2代	齋藤喜好	（平成5年～平成15年	上柏尾町内会）
第3代	齋藤宣雄	（平成16年～平成20年	柏尾町内会）
第4代	古谷登	（平成21年	上柏尾町内会）
第5代	瀬田正一	（平成22年～平成28年	柏尾台自治会）
第6代	齋藤純一	（平成29年～現在	柏尾町内会）

（4）柏尾地区の代表的な行事

柏尾地区連合町内会は年間を通して沢山の行事や催事を企画運営していますが、代表的なものは以下の通りです。

- 元旦マラソン大会（元旦、約200名、不動坂から3コースで柏尾小学校へ）
- さわやかウォーク（5月、約100名、現在箱根への道を探索中）
- 舞岡柏尾地域ケアプラザまつり（6月、約1,000名、ケアプラザ）
- おとなのインディアカ大会（6月、約50チーム、柏尾小学校体育館）
- 少年少女スポーツ大会（7月、約15チーム、柏尾小学校体育館）
- 各町内会・自治会納涼祭（7～8月）
- 舞中スポーツ交流会（9月、約40チーム、舞岡中学校体育館）
- 秋季レクリエーション大会（10月、約1,000名、柏尾小学校校庭）

防災拠点訓練（10月、約400名、柏尾小学校）

ドッジボール大会（11月、約15チーム、柏尾小学校体育館）

柏尾地区餅つき大会（12月、約700名、柏尾小学校駐車場）等々。

柏尾地区は江戸時代から大山阿夫利神社への大山道柏尾道の起点として栄え、また明治時代には鎌倉ハムの発祥の地として地域の活性化に努め、近年は京浜工業地帯の端に位置し、多くの工場群に囲まれ発展してきました。そうした昔からの歴史と伝統・文化を持ちながらも住民の8割以上は昭和30年代以降に編入してきた人々で構成されています。

そうした新旧の世代が共に助け合い、友好・連携を深め、地域で唯一の小学校である柏尾小学校を活動の拠点として、これからも安心安全な町づくりを目指していきたいと願っています。

7. 舞岡地区連合会の沿革

(1) あゆみ

- ・鎌倉郡川上村の7つの部落の一つであった舞岡は、昭和14年4月、舞岡町として新たな一步を踏み出した。舞岡町が誕生して遅くとも数年以内に、従来の隣組制度を基礎として舞岡町内会が結成されたと考えられるが、残念ながら明確な記録は発見されていない。
- ・昭和35年になると、川上地区の他の7つの町内会とともに川上地区連合町内会の結成に参加し、川上地区の重要な一員として活動することとなった。
- ・そして、昭和40年代になると人口が急増し、運営上の理由もあり、昭和41年4月1日に、国道1号から奥に向かって舞岡第一・第二・第三の3つの町内会に分離独立して活動する事となった。
- ・昭和42年には、旧来の地域の奥に大型の宅地開発により舞岡町生協団地が建設され、同年3月「舞岡町生協団地自治会」の名称で届出が行われた。この自治会は昭和45年に「舞岡台自治会」に名称変更して現在に至っている。
- ・また昭和48年になると「南舞岡自治会」が、更に昭和59年には「メガロン戸塚日限山自治会」が設立される事となった。
- ・こうして川上地区の一員として永きに亘り各種活動を続けてきた舞岡地区の町内会自治会は、昭和63年に川上地区連合町内会より分離独立した後、6町内会自治会が一つになって「舞岡地区連合町内会・自治会」として独自の道を歩むこととなった。この新たな連合としてのスタートに当たり、前年の昭和62年11月21日に、舞岡地区連合役員構成会議が開催され、以下の役員の下で進めていく事が確認された。

会 長：益田 茂平（舞岡第一町内会）

副会長：大西 弥平（舞岡台）、佐藤 慎一郎（舞岡第三町内会）

事務局：中島 義朗（舞岡第二町内会）

- ・昭和63年3月19日 舞岡地区連合町内会・自治会結成大会開催。
新たな連合の会長を務める事となった益田茂平氏は、舞岡地区連合町内会・自治会長を平成14年5月31日まで通算15年務め、更に戸塚区連合町内会・自治会連絡会会長として平成7年4月1日から平成14年5月31日まで6年の永きに亘り務め、地域・区のために尽くされることとなった。
- ・昭和63年7月4日 舞岡地区社会福祉協議会 設立。
- ・昭和63年10月23日 第一回舞岡地区連合大運動会開催。
- ・平成21年5月3日 第一回舞岡川鯉のぼりフェスタ開催
- ・平成29年4月23日 舞岡地区連合会に名称変更。

(2) 人口の推移と舞岡地区の特徴

年代	世帯数	人口
昭和4年	112	630
昭和30年	360	1,807
昭和40年	1,040	4,074
昭和50年	2,744	10,198
昭和60年	3,788	12,581
平成12年	4,980	12,855
平成30年	5,819	13,098

昭和4年には630名、昭和30年でも1,807名の人口であったが、昭和40年頃より宅地開発が進み、人口が大幅に増加した。地下鉄舞岡駅開業時の昭和60年には12,581名となり、現在も約13,000名の

人々が生活している。

舞岡地区は、農地の面積が約3割を占め、農と住がマッチングした土地である。農家で朝収穫した野菜が地下鉄舞岡駅近くの直売所「舞岡や」で販売され、新鮮な内に食することができる。それぞれの野菜が採れる時期には筍・じゃがいも・さつまいもなどを収穫体験できるイベントがあり、また果物（梅・梨・柿・みかん・いちごなど）も栽培しており、農家の圃場でもぎ取りをすることができ、市民の皆さんに大変喜ばれている。

(3) 歴代の会長と加入する町内会・自治会

*歴代の連合町内会長

初代	益田 茂平	(昭和63年度～平成14年度)	舞岡第一町内会
2代	榎本 ^{あきもと} 能彬	(平成15年度～平成16年度)	南舞岡自治会
3代	山本 益夫	(平成17年度)	舞岡第二町内会
4代	福田 俊光	(平成18年度～平成22年度)	舞岡第一町内会
5代	相澤 次郎	(平成23年度～平成27年度)	舞岡第二町内会
6代	築地 進	(平成28年度～平成29年度)	舞岡台自治会
7代	杉本 功	(平成30年度～現在)	舞岡台自治会

*現在の加入町内会・自治会

舞岡第一町内会	700世帯	舞岡第二町内会	900世帯
---------	-------	---------	-------

舞岡第三町内会 570世帯 舞岡台自治会 1,034世帯
 南舞岡自治会 780世帯 メガロン戸塚日限山自治会 108世帯
 (平成30年5月1日現在) 合計 4,092世帯

(4) 近年のトピックス

①舞岡第二町内会が「横浜・人・まち」デザイン賞を受賞

平成29年3月、舞岡町県道22号線「舞岡バス停」前の150㎡の憩いの場所である法地が「横浜・人・まち」デザイン賞「まちなみ景観部門」で表彰された。

平成18年から草刈りなど続け、晴れた日には富士山が臨める憩いの場として広く利用されている。



手作りの憩いの場

②舞岡中学校科学部が環境大臣賞を受賞



科学部の生徒達

舞岡中学校科学部は学校前に流れる舞岡川に生息している「ハグロトンボ」の生息状況を永年調査したことが評価され「2017年度環境大臣賞」を受賞した。ハグロトンボは黒い羽が特徴で、市内各処で観察できたが、水質汚染などで昭和30年代後半には一旦姿を消した。その後下水道の普及で河川が

整備され舞岡川にも生息が蘇った。平成24年は50匹、平成25年は130匹、平成28年は160匹と生息数が回復してきた。これからも舞岡中学校科学部の活動に地域を挙げて協力していきたい。



ハグロトンボ

③舞岡音楽まつり

「社会を明るくする運動」の一環として、「舞岡音楽まつり」を毎年開催している。このイベントは“大人も子どもも一緒に歌を通じてみんなで楽しくふれあい地域社会の連帯と家族のきずなを深めよう！”と企画した。



舞岡音楽まつりの様子

音楽で心の支え合いを続けている福祉事業団体、舞岡高校フォーク部の演奏、南舞岡小学校生徒の合唱、kaho*ライブなど舞岡地区の団体、小中高の各学校が参加して大いに盛り上がっている。

④舞岡川鯉のぼりフェスタ

舞岡川に隣接する遊水池公園をメイン会場に、毎年5月に実施している。

舞岡川の両岸にロープを張り、鯉を吊るして春風に泳ぐ鯉のぼりを見て楽しん

でいる。公園愛護会などの団体によるフリーマーケットや舞岡高校吹奏楽部による演奏などで楽しいイベントとなっている。平成30年はシンガーソングライターの kaho*さんの青空ライブが開催され、参加者は過去最高となり約800名が訪れた。この事業は、市、区、土木事務所に仮駐車場・河川一時使用許可・公園愛護会・愛護会キャラクターなどと連携し、地域のメイン事業として育てていきたい。



メイン会場吹奏楽演奏



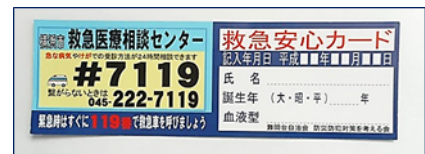
舞岡川に泳ぐ鯉のぼり



公園愛護会「あいごぼん」

⑤防災防犯対策

「緊急安心カード」は、平成22年に安心・安全な町づくり推進事業の一環として作成された。徘徊者、傷病者の救出に成果を上げるなど好評を得ており、平成26年に引き続き同28年(3,500部)にも作成し、会員世帯に配布した。



緊急安心カード

平成26年には南舞岡自治会、同28年には第三町内会にて同様に作成され、他地区にも普及している。また、舞岡地区ハートプランの緊急時の体制づくりとしても取り組んでいる。

「緊急安心メモ」は、火事や災害時など突発的な事態に面したときに、適切な対応が出来るよう、表面に緊急時に119番通報を覚書として「119番通報メモ」、裏面に救助を受けるために「あんしんメモ」がセットされている。



119番通報メモ。安心メモ

⑥防災訓練

災害は平日・休日・時間に関係なくいつ起きても不思議ではないことを想定し、平成28年度から南舞岡小学校地域防災拠点で、小学生児童と4町内会(舞岡台・南舞岡・舞岡第三・メガロン戸塚)合同訓練を実施している。

29年度も区役所、消防署、消防団、小学校の協力で約600名が参加して避難者の受け入れ訓練と倒壊宅の要援護者模擬搬送訓練を含めた安否確認、AED救命体験訓練、段ボールトイレ製作、炊き出し、飲料水の確保と避難所ブースの設営等の訓練を実施した。